

# 6/30 検査分科結成委かちどる

検査分科結成委員会は六月三〇日、佐倉、銚子を含む全支部からの委員が結集する中で開催され、動労千葉の戦闘的方針のもとに分科一体となって闘い抜いてゆくことが確認された。

## 佐倉、銚子支部からも結集

結成委員会は高田副委員長の開会のことばで始められ、議長に渡辺浦吉氏(蘇我支部)を選出して進められた。

林熊吉分科会長からの決意をこめたあいさつ、動労千葉・関川委員長からのあいさつの後、高田副委員長からの経過報告、林会長からの方針提起、林信一事務長からの規約(案)提起が行われ討論に入っていた。

この間の「本部」暴力集団による千葉排除↓動労千葉破壊攻撃をはね返した闘いについての自信と確信に裏付けられた討論が行われ、佐倉、銚子支部へ分科会としてオルグに入るということや、支部分科の結成委員会をできるだけ早く開催するなどを中心に話が進められ、最終的には執行部原案が満場一致で確認され、さらに、現執行部で次期定期委員会まで引き続き執行することが確認された。

再開された「本部」暴力集団の「オルグ」を粉砕せよ!

この検査分科結成委員会の成功が佐倉、銚子も

含め、全支部の参加をもってかちとられたことは「本部」暴力集団の動労千葉破壊策動の破産的状況と対照的に、動労千葉の団結が強固にうち固められていることの何よりの証であり、残る二支部・二分科の結成も時間の問題である。

全国大会を前に破産に陥る暴力集団は七月一日より再び展望のない「オルグ」を開始した。

しかし、この「オルグ」が破産以外に行きつく先のないことは自明である。自信と確信をもってこの策動を粉砕してゆこう。

## 夏季輸送交渉6/29妥結

各支部、分科からの要求を中心に行われてきた夏季輸送に関する交渉について、動労千葉は六月二十九日最終的に集約した。

一方、「本部」小屋原交渉団は当局へのイチヤモンつけ以外何もやっていない。ここでも動労千葉は確実に勝利している。

(詳細は交渉部報で)

シリーズ

反動の「サミット」と八〇年代労働運動のゆくえ ②その②

## (8) 「貨物安定宣言」で産業報国会の道を

つき進む動労「本部」暴力集団

最終回

動労千葉は、原則的な「鉄路の闘い」をもって、農地を武器に闘う三里塚反対同盟の農民と連帯して、政府・権力者の反動と暗黒の攻撃と闘ってきた。

「サミット」を経て、いよいよ顔面蒼白の権力者による攻撃が強められようとしている中で、「貨物安定宣言」を叫ぶ動労「本部」暴力集団の腐敗し切った姿がますます明白となっている。

動労「本部」暴力集団は「貨物輸送安定宣言」を発して貨物をストの対象からはずし「貨物輸送量が回復すれば、その時はストライキも行なう」(?!)

なる、国鉄労働者の利益よりも国鉄の経営を優先させるといふ考えを、今日ますます強めている。国鉄の危機そのものは、独占資本を軸とした経営と、再編合理化の過程でつくり出されたものであり、反労働者的な国鉄のあり方の結果であって、怒りの対象であつても労働者が責任をとる筋合などは全くない。

動労「本部」暴力集団が、今日このような反労働者的発想の上に立って、権力・当局と一体となった津田沼支部への襲撃をはじめ、動労千葉破壊のた

めに奔走している姿は、八〇年代に向け、先がけて、権力・当局の軍門に下った尖兵としてはつきりととらえ、全国鉄労働者の怒りの闘いの前に一掃することを通して国鉄労働者の手による真の労働運動、闘う労働運動を築きあげて行かなければならない。

「日本のために」「国鉄のために」といって、屈服と妥協を重ね、戦争のための、アジアや中東へ向けた弾薬や武器をこの手で輸送するような「労働者」になるわけには行かないのである。

(了)

三里塚・ジェット闘争貫徹 / 「国鉄35万人体制」粉砕!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ!